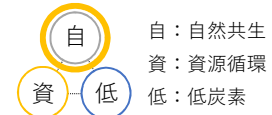


木戸川のサケ漁再開に向けて ～震災の時間をこえて、サケが戻る川へ～



キーワード	地方創生／森林・里山活用／食／ ブランド化／観光
フィールド	東北 (福島県) ・ 里川海
実施体制	木戸川漁業協同組合／檜葉町／ アクアマリンふくしま



アクションの目的
震災からの復興／地域活性化／サケの増殖事業／内水面漁業の振興／観光振興

アクションの背景
阿武隈山地を源流として、檜葉町で太平洋に注ぐ木戸川は古くからサケ漁が盛んで、毎年、サケ祭りも開催されるなど「木戸川のサケ」は地域のブランドとなっていた。しかし、東日本大震災による津波被害などにより、ふ化場などの施設は壊滅的な打撃を受け、東京電力福島第一原発の事故により、檜葉町も一時は全住民が避難するなど、サケ漁そのものができなくなった。こうした背景の元、木戸川漁協では、木戸川でのサケ漁再開を目指し、様々な取組を行っている。

アクションの内容

【木戸川でのサケ漁再開に向けた取組】
木戸川でのサケ漁再開に向けて、アクアマリンふくしま等からの協力も得て継続的に放射性物質のモニタリング調査を行い、安全性の証明を行った。
檜葉町の避難指示解除に合わせて、いち早くサケのふ化事業を再開させるため震災で大きな被害を受けたふ化場や直売所施設の整備を行った。
漁協の組合員が、学校や様々なイベントにおいて「木戸川のサケ」の魅力を伝える講義を行い、併せて安全性のPRと風評払拭に向けた取組を行った。

【ブランドの復活】
捕獲したサケをみそ漬けや珍味（さけのよ）など製品化し、ふ化場に併設した直売所で販売することで、「木戸川のサケ」のブランド復活に取り組んだ。

アクションのポイント

◎木戸川のサケ漁再開のために継続的に放射性物質のモニタリング調査を実施し、結果をアクアマリンふくしまで掲示し（福島県HPでは2015年から掲載）、安全性を証明した。
◎震災による壊滅的な被害から復旧し、檜葉町の避難指示解除に合わせたふ化事業の再開を果たした。

アクションの効果と今後の展開

○木戸川漁協の取組により、木戸川でのサケ漁が復活し、製品の販売も再開されるなど震災からの復興と「木戸川のサケ」ブランドの復活に向けた第一歩を踏み出した。
○2012年の檜葉町への立ち入り禁止の解除と同時に復旧活動を開始したものの、震災後5年間サケの稚魚の放流が行えなかったことにより、現在の漁獲量は限られているが、漁協ではサケと川の状況を確認しながら、時間をかけて以前の状況まで戻したいと考えている。
○今後は、復旧したふ化事業により震災前と同規模の稚魚の放流を行うことにより、サケの持続可能な資源としての利用を確立するとともに、「遊漁」の再開も目指す。また、周辺地域の河川でのサケ遡上復活の先行好事例としても、着実に事業を進め、浜通りのさらなる観光振興と地域活性化を図る。